

編集・発行

島根大学教育学部同窓会
(本部事務室)

松江市西川津町1060

島根大学教育学部内 (〒690-8504)

Eメール e-dousoukai@edu.shimane-u.ac.jp

http://www.suaa.shimane-u.ac.jp/edu/

index.html

電話(新設) 0852-32-6297 (FAXも同)

Leaf@同窓会

No.12 (特別縮小版)

新型コロナウイルス禍のため、この「Leaf@同窓会 No.12」は、特別縮小版(2ページ)としています。

母校、困窮学生を支援しよう！

— 緊急、「100万円」「募金180万円」を寄附しました —

寄附・募金の報告

教育学部同窓会 理事長

原 広治



「これまでに経験したことのない」新型コロナ禍の中にあって、母校教育学部も学生たちも非常事態に陥っています。

学生の暮らしも急変し、授業や友との語りはオンラインとなり、対面で行われる様々な体験活動やサークル活動は中止となり、仲間との談笑の機会までも奪われる状況となっています。なかには親元からの仕送りやアルバイト収入が激減し、毎日の生活を維持することも難しくなった学生も現れてきました。

そこで、同窓会では困窮する教育学部生や学部を支援するため、特別会計より100万円の緊急寄附を行いました(5月15日)。

しかし、学生の日常は大変厳しい状況が続いていることから、さらなる支援が必要と考え、本会会員の皆さまに対し、学生の学びと生活を守るための募金を6月からお願い致しました。8月24日までに集まった180万円もの浄財を教育学部・加藤寿朗学部長に対し会員(有志)からの寄附として贈呈いたしました(9月10日)。ご協力くださいました会員の皆さまの御厚志に対しまして心より感謝申し上げます。

“教育学部(生)とその卒業生の応援団”である同窓会としては、今後も学生支援を継続して行うとともに、今年度の事業についても、状況をみながらですが、できることをできるカタチで進めてまいります。引き続き、様々なご支援、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

(S56卒 教職大学院教授)



募金収支報告(決算…8月24日〆切分)

●募金者・団体数(終身会員・支部等)	272名
●募金総額	2,011,494円
●諸経費	143,515円
●学部への贈呈額	1,800,000円
●残余金	67,979円

コロナ禍における学生支援、学部支援ありがとうございます。

教育学部長 加藤 寿朗



島根大学では、新型コロナウイルス感染症の影響拡大に伴い、令和2年度前期の全ての授業を原則としてウェブ等を活用した遠隔授業で実施しました。不慣れな遠隔授業による学修や友達との関係づくりが十分にできない大学生活の中で、学生並びに保護者の皆様にご不便やご迷惑をおかけしてきたところです。学部として十分な学修支援、環境整備ができていない状況の中、本年5月に教育学部同窓会よりご寄附を頂き、遠隔授業用のノートPC(6台)・タブレット(10台)を学生に貸し出すことができました。また9月には、有馬同窓会長のお声がけで実施された「学生支援のための募金」による多額のご寄附も頂いたところです。同窓会の皆様のご厚情に心より感謝申し上げます。同窓会に支えられ、同窓会と共に歩む教育学部であることをあらためて実感しました。

今後も引き続き学生の学修をしっかり支援するように最大限努めてまいります。同窓会の皆様には、益々のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



今、大学は、学生たちは

教育学部学生教育担当
副学部長

川路 澄人

新型コロナウイルス感染拡大により3月の卒業式は中止に。卒業生たちは晴着を着ること、友だちに直接サヨナラを伝えることもなく新しい生活へ旅立ちました。新入生も入学式が中止となり、同級生と初対面するオリエンテーションは「3密」を避けるため2会場に分かれて実施しました。その後も1年生は大学構内に2回しか入ることなく、オンラインで講義を受ける日々が続きました。大学のみが対面授業を再開しないことが話題になっていますが、実際には高いハードルが幾つもあります。教育学部では厳密なガイドラインを作成し、8月末から教員養成に重要な教育実習を附属学校で開始すると共に、後期は実習系を中心に一部の講義での対面再開を準備しています。



コロナ下の大学生生活

共生社会教育専攻
4年

若宮 将司

広島県の教員採用試験が、一次中止、二次日程での面接と専門科目の筆記試験となりました。例年と異なり、筆記と面接の対策を同時進行させることが精神的負担でした。アルバイトも1つ辞めることを余儀なくされ、生活費も大変でした。また、卒業研究もオンラインで行うなど日常生活を大きく変えなければならぬことに戸惑いと不安を抱えて過ごしていますが、コロナ対策を十分に行いながら、残りの大学生生活を充実させていきたいと考えています。

学校の様子



教育学部同窓会 松江支部長
(古志原小学校 校長)

米田 靖幸

新型コロナウイルス感染に伴い、運動会や学習発表会、部活動や各種大会、保護者等への授業公開、異校種や地域の方との交流など多くの人が集まる行事等は中止したり、内容を縮小し外部からの来校者を制限して実施したりしています。その中でも、子どもたちはウィズコロナの時代を見据えて、「このようなことはできるかな。」「このようにしたらできるかな。」など自分たちにできることを工夫して、前向きに学校生活を送っています。(S59卒)

今年度の同窓会活動

「コロナ下の現状、見通し」

教育学部同窓会 会長 有馬毅一郎

コロナ禍により、同窓会の活動も大きな支障を受けていますが、様々な工夫や努力をしたり、新しい活動も始めています。

通常活動の現状

- ◆事務局の山田幸子さんは、通常通り毎週火金曜日も午後勤務していますが、高齢者の多い役員等の大学内への出入りは控えています。
- ◆同窓会にとって重要な理事会や役員総会は書面表決により実施。事務局会、幹事会等も、縮小や一部中止したりしました。
- ◆中止した行事や活動。「ほっと一息カフェ」(月1回)「こんにちは先輩先生」(学校訪問)「ホームカミングデー」(10月予定)も中止しています。

「コロナ禍で努力していること」

- ◆4年に1度の『同窓会名簿』(11月刊)『同窓会誌』『Leaf@同窓会』を発行することは、厳しい状況下で努力しています。
 - ◆コロナ禍で困窮に陥った学生の支援のため、特別会計から拠出し「100万円」を緊急寄附しました。その上、会員の皆様に協力をお願いして、募金活動をし、「180万円」を届けました。(P1参照)
 - ◆母校教育学部は、コロナ禍も含め近年にない様々なハンディや課題と戦っています。同窓会としても、今後共、できる応援をしたいと検討しています。
 - ◆「同窓会」の理解を深めていただくための広報的活動も検討しているところです。
- 今後とも、同窓会、同窓会活動への理解と協力をお願い致します。(S36卒)

お知らせ 今年度の「ホームカミングデー」(10月予定)は中止と致します。